

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

小19 町田市立高ヶ坂小学校

学力調査等の状況	
<p>国語では、都と全国の平均を上回っている項目は多い。特に、漢字や選択肢のある問いについては、平均より大のきく上回っている。反面、内容をまとめて書くこと、文章から分析して書くことが問われる問題は、平均を大きく下回ってしまっている。</p> <p>算数では、比較的どの項目も都と全国の平均を上回り、安定した学力を有しているといえるが、図形の名称や特徴、表から読み取ること、単位量当たりの大きさを基にして考える問題については、平均値よりやや下回った。</p>	

<p>国語については、書かれている文章をまとめてり、整理して分析したりする力が弱いことが分かったので、文章の読み取りについては、キーワードや大切などを意識して読み取らせる必要がある。</p> <p>算数については、計算の基礎的な知識や技能は身に付いているので、思考を図式化して考える力を身に付けたい。また、図形や表などは、他教科の学習でも意識して関連させ、身近なものとして使っていく必要がある。</p>	
---	--

授業をデザインする8つの取組について

ICT機器の活用	ICT機器を効果的に活用し、課題を焦点化したり児童の多様な考えを共有したりして深い学びを目指す。そのために活用方法を教員全体で共有し合えるように校内OJTなどの研修の場を設けている。
価値ある対話の共有	月1回サークル対話を行い、全学年を縦割りにしてグループを組み、話題を共有しながら、自分の考えを伝える場を設定している。児童の発言を価値付け、子供の意欲を引き出し、課題解決に生かす意識を高めている。
見通しをもたせる導入	ねらいにせまるため、関心をもたせるしかけを工夫し、学習の流れや単元計画を提示し、学習の進め方をイメージできるようにしている。

各教科における課題を改善するための指導の重点

	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
国語科	<ul style="list-style-type: none"> 発達段階に合わせて、理由・質問・感想を述べる際の言葉などを具体的に提示したり指導したりして、場面や目的に応じた言葉遣いや言い回しを多様にさせる。 単元のはじめで学習計画を提示する。本時のめあてを明確にして児童に見通しをもたせる。 ミニ作文、ペアやグループでの対話を通して、自分の考えを書いたり伝えたりする場を意図的に設け、主体的に取り組めるように導く。 自分の考えをもちにくい児童に対する手立てをしておく。 ICT機器を活用し、場面を具現化する。また互いの考えを伝え合う活動を充実させることにより学びを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 理由・質問・感想を述べる際の手立てを具体的に提示し、授業の中だけでなく日常的に使えるようにする。 毎時のめあてを枠組みし、視覚的に明確にして児童に見通しをもたせる。 ミニ作文やサークル対話に加えて、学習の場面においてもペアやグループでの活動を取り入れて対話に慣れるようにする。 個別指導に加え、ヒントカードや意見交流の活動を取り入れる等手立てをしていく。 ICT機器を活用し、課題を視覚的に捉えやすくする。また互いの考えを分類・整理して伝え合えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 理由・質問・感想を述べる際の手立てを具体的に提示することで、ミニ作文やサークル対話での対話を中心に自分の考えを書いたり伝えたりすることができるようにする。また、新出漢字を習得する際、熟語や使い方を考え、言葉や表現を増や機会にする。 単元の学習計画をワークシートや壁面等で提示し、めあてを明確にして児童に見通しをもたせる。 実物投影機を活用し児童の考えが共有できるようにし、集団での学びを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 物語の主題や、要旨をとらえるだけでなく、それに対する自分の考えをもち、話したり書いたりする活動を行う。 考えたことを友達やグループで話し合う時間をとり、多様な考え方をしり、自己の考えをより深められるようにする。 既習の漢字を使って文を書いたり、様々な言葉を用いて書くなど、高学年として適切な表現を用いることができる。 モジュールの時間を使って漢字学習の理解を図る。 ICT機器を活用し、児童の考えをクラス全体で共有できるようにする。
社会科	<ul style="list-style-type: none"> 興味関心をもちやすく、また実感を伴って理解しやすい資料の選択や提示の仕方を工夫する。 見学やインタビュー活動ができる場を設け、体験を通して理解を深めたり表現する力を高める。 ICT機器を活用することで、資料を焦点化したり、意見の共有をしたりできるようにする。また、児童が調べたり、情報を整理して考えを表現したりする場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活科「えがおのみつまちたんけん」の学習において、自分たちが住む高ヶ坂地域の商店などへのインタビュー活動を通して、自分の住んでいる地域で働く人や仕事に興味・関心をもたせるようにする。 「かぞくここにこに大きくせん」の学習において、家族にインタビューしたり、家の仕事を体験したりすることで社会の一員であるという自覚をもたせたり、社会に貢献しているという意欲をもたせたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 実物を見せたり映像資料を活用したりすることで、実感を持って理解しやすいようにしたことはよかった。 上記の事前学習が社会科見学の場で生かされていた。今年度は、学習発表会に向けた発展的な学習につなげていく。 情報を整理することが難しい。意見の共有はできるので、考えを深めて表現する力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の興味を引くような資料を厳選し、提示するようにする。 社会科見学だけでなく、映像資料を有効に使って、理解をしたり、表現したりする力を高める。 ICT機器を活用して、全体での意見を集約したり、情報を整理したりして、考えを深めたり、表現したりする力を高める。
算数科	<ul style="list-style-type: none"> 全学年習熟度別の学習形態をとる。授業開始の計算練習やNavima・Qubenaの活用、ノート指導など、共通事項の連携を図る。 各単元の前に、必ずレディネステストを実施し、児童の学力を担任・少人数担当で把握する機会をつくることで、個に応じた指導の充実につなげ、学習意欲と学力の向上を目指す。 ICT機器と合わせてデジタル教科書を活用することで、課題を焦点化したたり、児童同士の意見を共有したりする。 計画的に「東京ベースックリル」を実施して児童の理解や定着の度合いを確認し、個別指導や家庭学習で、より確実な習得を目指す。 「のびのびタイム」と称する放課後の補習時間を設け、基礎・基本の定着が十分でない児童に対して個別に指導する。特に第2学年は45分間、第3学年は60分間、地域人材を活用して1対1の体制で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ブレテスト・ワークテストの実施から、児童の習熟度を把握したクラス編成にし、個に応じた指導の充実を図る。 ICT機器を活用し、視覚的に課題を捉えられるようにする。実物投影機を活用しノート指導を行ったり、児童のノートを全体に共有したりして、自分の考えを図や言葉で表すことができるようにする。 Navimaによる技能の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習に集中して取り組むきっかけと基礎基本の定着をねらいに授業開始時に計算練習を行う。 各単元のレディネステストを実施し、児童の習熟度に合わせたクラス編成を行うことで、個に応じた指導の充実を図る。 ICT機器やデジタル教科書を活用し、課題提示の工夫や児童の考え方の共有につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習に集中して取り組むきっかけと基礎基本の定着をねらいに授業開始時に計算練習を行う。 各単元のレディネステストを実施し、児童の習熟度に合わせたクラス編成を行うことで、個に応じた指導の充実を図る。 ICT機器やデジタル教科書を活用し、課題提示の工夫や児童の考え方の共有につなげる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 観察や実験など、体験的な学習を多く取り入れることで、興味・関心を高め、自発的な学びができるようにする。観察や実験の不足分をICT機器を活用し、映像資料で補う。 観察記録、実験結果などのデータと現象とを関連付けて考え、自分の考えをもち、発表できる場を設ける。 ICT機器を活用し、児童同士の意見交換の場を充実させる。(スプレッドシートやスライドの活用、レポート作成) また、観察や実験の不足分を映像資料で補う。 デジタル教科書の活用により、個別最適な学習環境を整える。 学習のまとめにNavimaの問題に取り組み、基礎知識・技能の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活科の学習において、アサガオやミニトマト、サンマイモの生育活動を行う際には、観察の視点を絞って指導するようにする。 生活科の学習において、おもちゃづくりや、様々な遊びをする際に、必要なものを考えたり、結果を予想したりする力を伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> 校庭周辺の木々や自然園を大いに活用して、植物・昆虫等の観察ができる。月や星など時間的に観察することが難しい学習は、家庭の協力を得ているが、映像資料を活用し、焦点化させることで基礎知識が定着するよう努める。 実験結果から「～といえる。」というまとめ方をさせ、自分なりにめあてに沿った考察までできるように流れを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験的な学習は概ね順調だが、自発的な学びまではもう少し。自由な発想が生かせるような雰囲気づくりや手段の細かな準備が必要か。 実験結果から、自分なりの考えをそれなりにもてるが、豊かな表現までは至っていない。考えを交流し合う場を充実させたい。

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
生活科	<ul style="list-style-type: none"> ○アサガオやミニトマトなどの栽培を通して、花や実の変化や成長の様子に気付き、栽培の喜びを味わったり、大切にしたりする。 ○季節の特徴に気付き、それを生かした遊びや身近な材料でおもちゃ作りをし、楽しむことができるようになる。 ○兄弟学級や幼稚園・保育園との交流を通して、活動の意図に気付いたり、よりよくするための工夫をしたりして、遊びや生活を楽しく充実させる。 ○ICT機器を活用し、具現化したり学びを深めたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○動植物の飼育・栽培を行う中で、それらの成長に気付き、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする。 ○季節の変化や季節と自分たちの生活との関わりに気付き、身近な自然で遊びを工夫したり、楽しんだりすることができるようにする。 ○兄弟学級や地域の人との交流の中で、相手の思いに気付き、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるようにする。 ○観察したり、調べたりしたことをまとめ、発表する手段としてICT機器を活用し、自分の考えを他者に共有できるようにする。 		
音楽科	<ul style="list-style-type: none"> ○歌唱、器楽共に、正しい発声やタンギング等が身に付くように、楽しみながら表現する活動を充実させていく。 ○リズムやことば遊びをおりまぜながら音楽づくりに親しみ、創造性を育てていく。 ○鑑賞ではICTを活用した授業を取り入れ、日本や海外の音楽に触れて、オーケストラの楽器についても楽しみながら分かりやすく学習できるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の導入として呼吸法や短い音楽づくりやリズム打ちを取り入れながら発声練習を行う。 ○鍵盤ハーモニカは階名唱で歌いながら指を動かして指使いやリズムを確認してから音を出して演奏する。その後、打楽器と合わせて色々な音色を味わわせる。 ○ことばあそびでリズムをつくり、よびかけとこたえで旋律づくりに親しむ。 ○身体を動かしながら音楽を鑑賞する楽しさを知り、そこから表現活動へ繋げていくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の導入として呼吸法や短い音楽づくりやリズム打ちを取り入れながら発声練習を行い、まとまりのある二部合唱の活動へ繋げていくようにする。 ○リコーダーは、運指をゆくり理解させながら、息の使い方とタンギングについても丁寧に指導する。 ○短い旋律をつくり、リコーダーや鍵盤ハーモニカで発表して共有する喜びを味わわせる。 ○鑑賞ではICTを活用した授業を取り入れ、金管楽器や木管楽器について楽しみながら分かりやすく学習できるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の導入として呼吸法や短い音楽づくりやリズム打ちを取り入れながら発声練習を行い、二部合唱の活動に繋げていく。また教科書の楽曲の構成を考えながらリズムを作り、カスタネットを用いて表現している。 ○リコーダーは運指を理解した上で音を出し、息の使い方とタンギングも丁寧に指導する。鍵盤ハーモニカは階名唱で歌いながら指を動かして指使いやリズムを確認してから音を出して演奏をする。その後、リコーダーと共に、アコーディオンや打楽器とも組み合わせで合奏に発展させ、色々な音色を味わわせる。 ○鑑賞ではICTを活用した授業を取り入れ、オーケストラの楽器についても楽しみながら分かりやすく学習できるようにする。
図工科	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器を活用して造形作品や写真を例示したり、映像作品を制作したりして、造形活動の興味関心を高めるようにする。また基本的な資質や能力を育むとともに、作品の主題を他教科と連携した内容にすることで他教科と連携した造形活動を行う。 ○ICT機器を活用して情報を集めたり整理したりすることで、児童が豊かに発想を広げて制作を進めていくことができるようにする。 ○友達の良い作品のよさや作品に込めた思いを感じることができるよう、鑑賞活動を行わせる。また近隣美術館での鑑賞活動等を行うことで、作品の価値を感じとったり、歴史的な意義を学んだりすることができるようにする。(第4学年) 	<ul style="list-style-type: none"> ○題材の導入で用具の扱い方や基本的な技能を指導して、基本的な資質や能力を育むことができるようにする。 ○水彩画や紙工作の制作活動を通して、児童が造形活動への興味・関心を高めることができるように、タブレット端末やプロジェクター等のICT機器を活用して題材提示や制作手法の提案等、導入の工夫を行う。 ○友達の良い作品、また低学年児童が親しみやすい芸術作品を鑑賞して、感想を話し合い楽しく鑑賞活動を行わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○木工作や木版画等、中学年で実施する題材を通して、基本的な資質や能力を育むことができるようにする。 ○タブレット端末やプロジェクターを活用した題材提示を行い、児童が興味関心を高めることができるようにする。 ○近隣美術館で身近な芸術家の作品を鑑賞したり友達の良い作品を鑑賞したりして、自他の表現を認め合う活動を行わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○水墨画等、生活に彩りを加える題材を通して、高学年に求められている基本的な資質や能力を育むことができるようにする。 ○タブレット端末を活用して、画像の編集や撮影を行うことで興味・関心を高めて造形的な見方・考え方を深め、表現をすることができるようにする。 ○校内作品展の作品を鑑賞して、そのよさや作品に込めた思いを感じ取り、「子ども芸員」として来校者に作品に込めた思いやよさを伝えさせる。
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> ○裁縫、調理実習等の活動を通して、作成、実習の手順の重要性や協力することの大切さを学ぶと共に、生活に必要な基礎的・基本的な技能を身に付けられるようにする。 ○授業の中で児童に家庭での生活との関わりを問いかけることにより、学習したことを家庭での生活や、今後の自己の生活に生かそうとする気持ちを育む。 ○ICT機器を活用することで、資料を焦点化したり、意見の共有をしたりする。 			<ul style="list-style-type: none"> ○裁縫、調理実習などの活動を通して作成、実習の手順の重要性や協力することの大切さを学ばせる。特に、今年度は調理実習が可能となったため、計画的に取り組みせ、基礎的・基本的な技能を身に付けられるようにする。 ○授業で調理したものや家で作るなど、学習したことを家庭での生活に生かそうとする気持ちを育む。 ○ICT機器を活用し、資料の焦点化や意見の共有をする。
体育科	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研究を通して、児童の実態や個に応じた指導方法を教員全体で考え、共有する。 ○できるようになった喜び、運動する楽しさを味わわせる。 ○ICT機器を活用し、課題の気付きや振り返りに生かす。 ○認め合い、励まし合う中で、自信をもち、粘り強く取り組めるようにする。 ○コーディネーショントレーニングを取り入れ、体力・運動能力の向上に努める。 ○授業以外に体力向上旬間を実施したり、休み時間の外遊びを奨励したりして、運動の日常化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体力テストの結果をもとに、児童に付けたい力を強化する場の工夫をし、休み時間に遊び感覚で触れられるようにしている。 ○音やリズムで楽しく動きながら、体の部位を意識して動かすようにする。 ○動画を撮影したり、友達と動きを見合ったりして、自分や友達がどのような動きをしているかを知ることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研究を通して、児童が自分の課題をもち、解決に向かうことができる指導計画を立てる。 ○できるようになった喜びにつながる場の設定や手立てを工夫する。 ○コーディネーショントレーニングを取り入れるほか、日常的に体を動かす外遊びを奨励して、体力の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研究を通して、児童の実態や個に応じた指導計画を立てる。 ○学習カードを工夫し、自己やグループの課題を解決するための手立てを考えられるようにする。 ○運動旬間や持久走記録会などの行事と関連させて学習を計画したり、休み時間の外遊びを呼びかけたりする。
外国語科	<ul style="list-style-type: none"> ○ALTの発音に習って繰り返し声に出すことや、他者とのコミュニケーションを通して、発話の量を増やす。 ○読み書きの活動を授業の中でバランスよく取り入れて、4つの領域を計画的に行い、充実させる。 ○ALTとHRTの連携を深め、役割分担を明確にし、毎時間の指導をより充実させる。担任単独型の授業を積極的に行う。 ○ICT機器を活用することで、資料を焦点化したり、意見の共有をしたりする。 			<ul style="list-style-type: none"> ○デジタル教科書やALTのモデルを聞いて繰り返し発音を練習したり、友達と会話をしたりするなど、実際に声に出して英語に親しむ活動を増やす。 ○読み書きの活動を取り入れ、簡単な単語や文がかけられるようにする。 ○ALTやMepsとの連携を深め、教材研究の充実を図る。

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ○高ヶ坂の地域性を生かしたり、地域との関わりを強めたりして、地域の自然や施設、人と触れ合う学習を積極的に進める。 ○自ら課題を見付け粘り強く追究し、まとめ・表現していく探究的な学習展開を進める。 ○ICTを活用し、情報収集やプレゼンテーションの作成などを行うことで、児童の情報処理能力の育成を図る。兄弟学年や他学年への発表を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ○地域に根付いた活動、地域の人々との関わりを通して、自分たちが住む高ヶ坂にさらに興味をもったり、身近に感じたりできる。 ○課題に対して調べる方法を具体的に提示し、積極的に探究する活動につなげる。 ○ICT機器を活用して、プレゼンテーションを作成し、活動の流れを提示したり、児童が情報をまとめて発表に使ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○高ヶ坂の地域性を生かした教材の設定をし、地域の自然や施設、人と触れ合う機会をもつ。 ○自ら設定したテーマについて資料を有効に使いながら、調べまわっていく活動を取り入れる。 ○ICT機器を活用し、調べたことをプレゼンテーションを作成し、発表する機会を設ける。また、それを他学年に発表する。
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> ○他教科・行事等との関連を意識して年間指導計画を検討する。 ○各学年の実態に応じた話し合い活動を取り入れることで、他者理解へつながるようにしていく。 ○終末の時間を十分に確保して道徳的価値に基づく自己の振り返りの時間を設置し、道徳の実践力を育てる。 ○道徳授業地区公開講座では、児童に適した内容項目で授業を行い、保護者にも「考え・議論する道徳」を展開する。 ○6月の小中連絡会で、道徳授業を中心に、意見交換、研鑽し、指導に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○他教科・行事等との関連を考え、横断的・縦断的に指導する。 ○学習したことが、実生活で生きるよう、生活場面に関連付けて考えられるようにする。 ○ICT機器を活用しながら、読み聞かせや、終末の時間には詩や歌を歌うなどの工夫を取り入れる。 ○道徳授業地区公開講座では、児童に適した内容項目で授業を行い、保護者にも「考え・議論する道徳」を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○他教科・行事等との関連を考え、横断的・縦断的に指導できるよう、指導計画を見直す。 ○題材に対する考えや気持ちを多面的・多角的に広げられるように、ペアやグループなど発表や話し合いを取り入れる。 ○自己を見つめる時間を取り入れることで、自分の経験や感じ方、考え方を照らし合わせながら、考えを深めるようにする。 ○ICT機器を活用しながら、読み聞かせや、終末の時間には詩や歌を歌うなどの工夫を取り入れる。 ○道徳授業地区公開講座では、児童に適した内容項目で授業を行い、保護者にも「考え・議論する道徳」を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○他教科・行事等との関連を意識して、年間指導計画をもとに横断的・縦断的に指導する。 ○実生活から学習に結びつけて考えられるよう、実態に応じた話し合い活動を取り入れる。 ○終末の時間には、教師の読話を入れることで、自己の生き方についての考えを深め、規範意識や自己を振り返ることへ関連付けて考えられるようにする。 ○ICT機器を活用しながら、読み聞かせや、終末の時間には詩や歌を歌うなどの工夫を取り入れる。 ○道徳授業地区公開講座では、児童に適した内容項目で授業を行い、保護者にも「考え・議論する道徳」を展開する。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ○協力して計画・実践し達成する喜びを味わわせ、集団の一員としての自覚と自己有用感・自己肯定感を高める指導を行う。(10月たてわり班での清掃活動) ○異学年交流(たてわり班や兄弟学年)を通して、高学年児童には集団をまとめ率先して行動する力を、中・低学年児童には集団の一員として協力して活動する力を育て、互いに豊かな人間関係をつくれるようにする。 ○サークル対話により、互いの考えの交流を行う。 ○ICT機器を活用して、委員会活動を活発にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○係活動や当番活動において、互いに協力して、主体的に取り組むことができるようにする。 ○遠足やサークル対話などの兄弟学年交流、縦割り班活動を通して、集団の一員として協力して活動する力を育て、仲良く活動することができるようにする。 ○ICT機器を活用した集会活動に楽しく参加できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○係活動や当番活動において、学級の一員として自覚をもって仕事ができただけには大いに認め、協力することの大切さに気付くようにする。 ○遠足、サークル対話など中学年の活動を通して、仲良く活動ができるようにする。特に4年生は、リードしたりよい手本になったりできるように意識させる。 ○高学年が学校のために仕事をする姿を見たり意識したりする機会を意図的に作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○委員会活動などを通して高学年として、学校のために仕事をすることの大切さや、やりがいを感じさせる。 ○クラブ活動やたてわり班活動などの集団をまとめる体験を通して、責任感や自主性を育てる。 ○こどもまつりを計画、実行することで、他を認め合い学級学年で協力することの大切さに気付く。
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ○身の回り、学校にあるものなどの言葉を知り、英語で話したり聞いてみたりして、慣れ親しむ。 ○ALTの発音に習って繰り返し声に出すことや、他者とのコミュニケーションを通して、発話の量を増やす。 ○Mepsの活用により、教材研究を深め、毎時間の外国語活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歌やゲームの中で楽しく言葉を覚え、主体的に英語で話したり聞いたり、慣れ親しむことができるようになる。 ○相手意識をもち、目を見て話したり相づちを打ったりしながら会話をできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身の回り、学校にあるものなどの言葉を知り、主体的に話したり聞いてみたりして、慣れ親しむことができるようにする。 ○ALTの発音をよく聞いて繰り返し声に出すことや、コミュニケーションを通して、発話の量を増やすことができるようにする。 ○MEPSと打ち合わせ、授業計画を立てたり、教材研究を深めたりする。 	